

## MACF礼拝説教要旨

2021年8月15日

「聖餐式を考える」  
(聖餐式と「いただきますの文化」について)

### ルカによる福音書

22:14 時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。

22:15 イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。

22:16 言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」

22:17 そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。

22:18 言うておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」

22:19 それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。

「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

22:20 食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。

\*\*\*\*\*

### マルコによる福音書

14:22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」

14:23 また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。

14:24 そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。

14:25 はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」

\*\*\*\*\*

### 最後の晩餐

イエス様は十字架にかかる前、弟子たちと特別な食事の席を設けました。

これは「過越の食事」と言われる場面ですが、杯を取りという言葉が2回出てきます。

これは「過越の食事」の特殊性を理解しなければなりません。

「ペサハ」と呼ばれるこの食事の順序はこうです。

#### 1. 前半(儀式的な食卓)

(1) 蠟燭の点火と祈り

(2) 子どもの祝福(父親が子どもたちを祝福します)

(3) 最初の杯が満たされ、回し飲みされる。

(4) 水差しで両手を洗い、野菜を塩水に

浸す(塩水はユダヤ人の苦難の歴史を意味する)。三枚に重ねられた種なしのパン(マツァ)の中から真ん中のマツァを取り、それを二つに割って(裂いて)、一方を布に包んで置きます。

(5) 二杯目の杯が満たされ、回し飲みされる(ルカ22:17)、エジプトでの苦難の歴史が語られる。

(6) 詩篇113篇と114篇が食前の祈りとして唱えられる。

(7) 再度手を洗い、マツァが割られて配られ、各自それを取り(ルカ22:19)、苦菜をドレッシングに浸し、マツァと重ねられる。

これらを口にするのは、食事の儀式に従ってその都度一斉に行われる。

\*\* 儀式的な食事はここで中断し、夕食をくつろいだ雰囲気の中に楽しむ。

## 2. 後半(儀式的な食卓)

(1) 食事の後、第三の杯が満たされ(ルカ22:20)、感謝の祈りがささげられる(かなり長い)。

(2) 第四の杯が満たされ、詩篇115、116、117、118篇、および詩篇136篇を食後の祈りとして唱える。

(3) 「来年こそはエルサレムで」(離散ユダヤ人のためのもの)

イスラエル在住者は再建されたエルサレムで」と唱和して式は終わる。

\*\*\*

イエス様と弟子たちの食事はこういう出来事の中で特に「イスラエルの歴史」の中での神様の介入、神様による助けを喜ぶ時間だったのです。

ですから、こういう状況の食事の中に異邦人が混ざることができる、ことは驚きであり、大きな祝福だったと思います。

\* 「わたしの記念として」

長い歴史の中で、この食事が「イスラエルの歴史」というより食事も簡素化され「イエス様の十字架の死と復活」を覚える出来事として「聖餐式」が制定されるに至りました。

パウロはこう書きました。

コリント第一10章16-17

10:16 わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか。

10:17 パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです。

+++

11:23 わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、

11:24 感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

11:25 また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

11:26 だから、あなたがたは、このパン

を食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

11:27 従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すこととなります。

11:28 だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。

11:29 主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです。

+++++

\* 「いただきます」の文化

わたしたち日本では「いただきます」という挨拶の言葉があります。

これは考えてみると素晴らしい挨拶です。

「感謝、お礼の心」に溢れて用いられる言葉です。

私たちが生きていくうえで欠かすことができない、肉や魚、そして野菜、果物への感謝。お肉やお魚から、野菜や果物も私たちが食べることでそれぞれの命を落しています。

私たちが生きるためには何らかの動物（植物）が犠牲になっています。

食事前の挨拶には、「命を頂き、自らの命にさせて頂きます」という意味が込められているのです。

\* 食事に携わってくれた方への感謝

「いただきます」には、その料理が提供されるまでに関わったすべての人に感謝するという意味合いもあります。

これをキリスト教的に理解すると、聖餐式のパンと葡萄酒を受ける時

- 1) 私たちを生かすためにいのちを提供してくださったイエス・キリスト
- 2) その「いのち」を具体化する「肉としてのパン」「血としての葡萄酒」それを受けることでキリストのいのちが私たちのものとなる。

同時に「赦し・癒し・希望」のための「聖餐」

「心からのいただきます」

「ごちそうさまでした」（あなたのいのちを力にして生きていきます）

3) 契約の血

イエス様のいのちの提供は決して事故ではなく偶然でもありませんでした。

そしてイエス様が提供しようとしている「いのち」は単なる肉体的なものではなく「神様との関わりへの回復をもたらす霊的いのち」も含まれています。

イエス様は「わたしたちのためにこそ来てくださり、十字架で私たちの身代わりに裁かれ、打たれ殺されました」

つまり「イエス様はご自分のいのちを提供するためにこそ、私たちのために来られ、このパンとこの杯は、わたしの体、わたしの血なのだから、受け取りなさい」

と言われるわけです。

4) この食事は軽々しくなされるべきではない

「いただきます。」がイエス様のいのちをいただきますということだとわかると、真剣にならざるを得ません。普段、日本では食事のたびごとにこの言葉を使います。

ですから、普段も真剣に、そしてイエス様との食事を考える時はなおさら真剣に「いただく」ことを受け止める努力と理解が必要です。

今、礼拝に集まって聖餐式ができないとき、ぜひ、家庭で、あるいはひとりできちんと「イエス様を食する」ことを実行してほしいと思います。普通の食事の際にも「神様に備えられていのちをいただいている」ことを感謝し、それとは別に「パンと葡萄酒」を準備し、しっかり「イエス様を食する」という「いただきます」の時間をとっていただきたいと思います。

祝福がありますように。

\*\*\*\*\*

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/7PaQJR0xUUM>